

(平成 30 年 10 月試験研究業務月報)

試験研究課題：新病害ネギえそ条斑病の発生生態の解明と防除技術の確立

研 究

ネギえそ条斑病の体系的防除技術確立に向けて

ネギえそ条斑病は、アイリス黄斑ウイルス（IYSV）の感染が原因でネギの葉に黄白色の斑点が生じる重要病害であり、山城地域を中心に発生して問題となっています。発生すると生産量が減少し、農家経営に大きな損害を与えるものとなります。

当センターでは、府内各地のネギ産地においては年 3 回、山城地域においては 1 週間毎に、本病及び IYSV を媒介するネギアザミウマの発生状況を調査し、発生生態の解明を進めています。さらに、本病の効果的な防除技術を確立するため、京都市の生産者の協力を得て、ネギアザミウマの侵入防止効果が確認されている赤色防虫ネットを設置するなど、これまでに明らかとなった有望技術を組み合わせた現地実証試験を行いました。

今後は、これら研究において得られた知見をもとに、生産現場で活用していただくための「ネギえそ条斑病防除マニュアル」を作成します。



ネギえそ条斑病とネギアザミウマの発生状況を調査
(府内各地の 10 月発生調査、写真は八幡市)



ネギアザミウマとネギ被害葉



ネギえそ条斑病の症状